岡山県立邑久高校

地域で学ぶ邑久高校 「セトリー」
ハンセン病について聞き、学び、伝える

取組等の概要

本校では、１・２年次生のうち、国公立進学コースの生徒約１００名が、学校のある瀬戸内市をフィールドとして、「地域学」に取り組んでいます。瀬戸内市に唯一の高等学校として、地域の魅力と課題を発見し、地域に提言することで地域活性化に貢献することを目標に、進路分野に沿った課題研究に取り組むことで、生徒自身の主体性・思考力・表現力・コミュニケーション能力・進路意識といった力を向上させることをねらいとしています。

１年次では、課題研究に取り組む上での基礎を養成し、地域学入門を学ぶ。その上で、２年次では、自分の希望する進路分野に沿って、８分野のグループに分かれて研究テーマを設定し、地域の施設・企業・ＮＰＯ・人と連携しながら、フィールドワーク、聞き取り、調査研究を進めていきます。

８分野のグループの内の一つである〈福祉グループ〉では、邑久高校のある瀬戸内市にハンセン病の国立療養所長島愛生園と邑久光明園があり、長島愛生園内にはかつて国内唯一の療養所内の高等学校である岡山県立邑久高校新良田教室を邑久高校の歴史の中で持つことから、ハンセン病の歴史を学び、後世に広く伝えていくことを邑久高校の使命として、「後世に伝えよう、邑久高の歴史と瀬戸内市の誇り」というテーマで研究しています。これまでに両療養所の訪問見学、元ハンセン病患者の方、新良田教室に在籍していた生徒や教員の方々から、当時の様子を実際に聞き、考えを深めています。学び考えたことについては、新聞への投書を行う、地元瀬戸内市共催のハンセン病シンポジウムでパネラーの一人として発言する、あるいは総合司会者として会全体を進行する、名誉回復の日には校内放送で全校生徒に呼びかけるなど、校内外に広く発信しています。シンポジウムでは、また、その様子は新聞やテレビに取材され、これまでに３０回以上、新聞・テレビで紹介され、広く反響を呼んでいます。

生徒には、地域、学校の歴史としてハンセン病について知るとともに、この負の歴史から差別を見逃さない視点を養ってもらいたいと考えています。少しでも多くの人にハンセン病について伝えるとともに、これからの差別のない社会づくりに貢献できるよう、今後も長く研究を引き継いでいきたいと考えています。